

最後の一周 拍手の中達成

旧市民球場 がん患者ら24時間歩く



横断幕を手に球場を一周する参加者（旧広島市民球場で）

がん患者や家族らが24時間、広島市中区の旧広島市民球場を歩き続け、交流を深めるチャリティーイベント「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2009 in 広島」は23日、500人以上の参加者が整列して

球場で最後の一周をし、閉会した。22日午後にスタート。約2200人が参加し、夜も交代しながら歩いた。中には、約400周したという人も。最後の一周は、「がんになっても不幸で

はない」「なんとかなるさいつも笑顔で」などと書かれた横断幕を持って歩き、見守っていた人たちから大きな拍手で迎えられた。

閉会式では、「がんの早期発見、早期治療の啓発のための活動が続けます」とする大会宣言を発表。浜中和子・実行委員長は「このリレーで、感動したこと、勉強したことを、まわりの人に伝え、がんになっても普通の生活ができるよう、がんはって下さい」と呼びかけた。

乳がんの手術を経験したことがあるという広島市佐伯区利松の仲西実穂さん(44)は「たくさんの人たちが参加している姿に、闘っているのは私一人じゃないというのがわかり、力強く感じました」と話していた。